

## CHAPTER 9 オフィス環境

- 01 ワークプレイス
- 02 NECソリューションイノベータのオフィス
- 03 Learning PATIO

# 01 ワークプレイス

## シーンに合わせて選べる 多様なワークプレイス

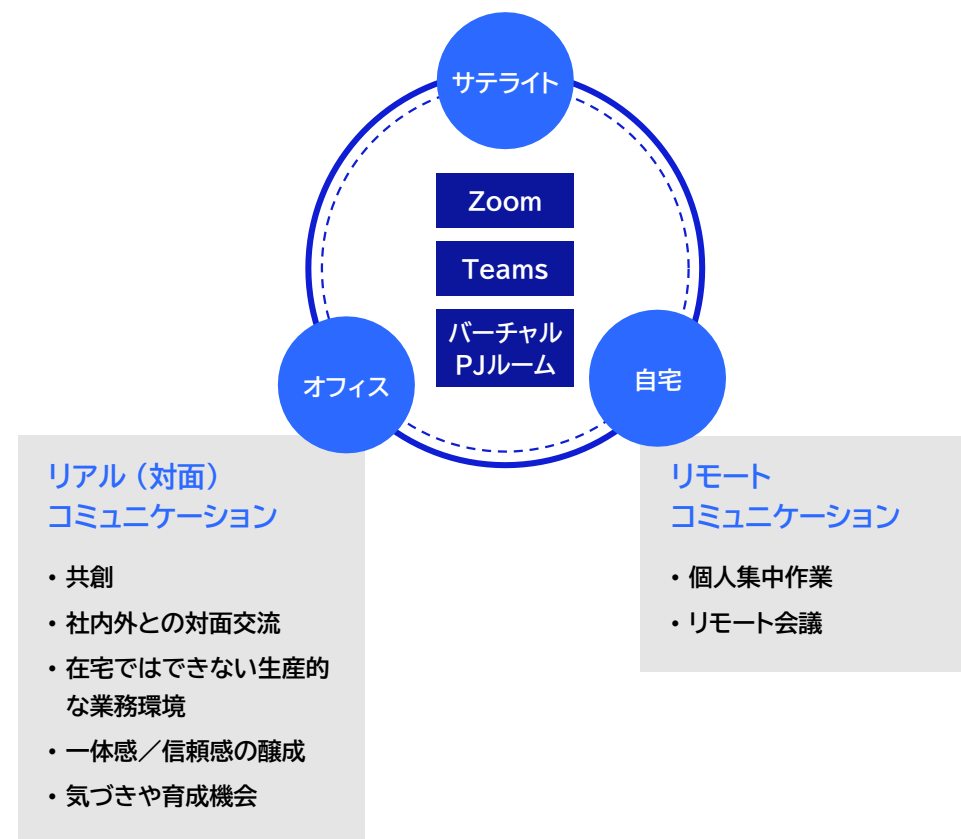
働く場所が多様化する中、オフィスは“集う場”として入社時のメンバー間のコミュニケーションを促進し、「リアル」と「リモート」をつなぐ場と定義しました。オフィスは2つの類型で構成されており、1つは「コミュニケーション・ハブ」、もう1つは「イノベーション・ハブ」です。

「コミュニケーション・ハブ」は、チームによるオープンで活発なコミュニケーションにより、ベクトル合わせと信頼関係構築を行う場です。一方、「イノベーション・ハブ」は誰でも使え、外の人を招きたくなるような、組織の垣根を越えて使いたくなる場です。実際のオフィス設計には、その日の業務やシーンに応じてオフィス内の多様なアクティビティを自由に選択するABW(Activity Based Working)の概念を取り入れています。

現在の出勤率は約3割弱です。職場ごとに状況は異なるため、全社一律の目標は設定していません。

なお、当社には服装に関する規定がなく、ドレスコードフリーとしており、働く時間と場所の自律的なデザインとともに、その日の働き方にフィットする服装を社員それぞれが選択しています。

### ■ワークプレイスの多様化



## 02 NECソリューションイノベータのオフィス

### 新たな働き方を支えるオフィス変革

オフィスを「集う場所」として再定義し、「入社時のメンバー間のコミュニケーション」や「リアルとリモートをつなぐ場」に適した働き方ができるようにするという方向性を見出しました。

現在全社でオフィス改革に取り組んでおり、2025年度は西日本支社のリニューアルが完了しました。また、リニューアル完了後も、働き方の変化に合わせて随時見直しを行っていく予定です。



# 03 Learning PATIO

## 学びのために デザインされた空間

新たな学びの場として、2024年2月に「Learning-PATIO」をオープンしました。本社ビルの11階が、4つの部屋と広々としたイベントスペースに生まれ変わりました。

Learning-PATIOに入ると、見晴らしの良い空間が広がります。「Open area」と呼ばれる中央のメインスペースには、様々な講演やイベントに対応できるよう、大型スクリーンとステージを設置。部屋のどこにいてもステージを望めるように、椅子は中心から徐々に高くなっていく工夫が施されています。

中央エリアを囲むように設けられた4つの部屋には、グループワークやワークショップなど、シーンに応じて柔軟に対応できるよう、利用者が自在に移動できる1人用のテーブルと椅子を設置。自由なレイアウトで活用されています。

ステージと反対側にある壁には「ふと目にした情報から学んでいく」をコンセプトにした「Passive zone」というエリアがあります。会社からのメッセージ発信に加え、設置されたアクリルボードに新入社員が学んだことや研修チームで立てた将来へのビジョン、目標などを掲示し、次の世代へ紡いでいきます。それは次の新入社員たちへのメッセージになると同時に、利用する社員がフレッシュな気持ちに戻れる場として機能しています。

### ■Learning-PATIOのコンセプト

## Learning-PATIO

成長の土台となる中庭  
社員が成長していくための「5つの研修style」を実現

名称に込めた思い

「地を養えば、花は自ら開く」学び舎のパティオのように、集い、刺激しあい、様々なインプットが新たな価値の実現に向けた礎となる場として

